

1930(昭和5)年～

### 1. 経歴・狭山市とのかかわり

水富村笹井に誕生。農業今坂権三郎の次男。成績優秀で書も優れており、今も水富小学校に残されている。15歳の時、1945(昭和20)年5月25日夜中、笹井空襲に遭う。33年後に「狭山戦災の頃をしのぶ夕べ」を開催する。25歳頃、俳句に出会う。日々農業をする中で17文字に思いを表現することに夢中になる。地域に残る昔話を訪ね廻り、採話して残す。57歳でマラソンを始め、数々のレースに参加。

元狭山市文化財保護審議会委員長・元狭山市史編纂委員



### 2. 主な業績

①地域の民話220話を採話し、この地につながるご先祖の足跡として「龍じいの昔話」10冊にまとめた。(『わらやねの下の昔ばなし』『狭山の民話』『むさし野の伝説』『あぜみちの昔ばなし』『茶の花村の昔ばなし』『いどぼたの昔ばなし』『ランプの下の昔ばなし』『星ふる里の昔ばなし』『龍じいの昔ばなし』『高麗郷昔ばなし』)その土地の伝承話はその土地の言葉で語ることにこだわる。

②俳句同好会「ささぶね」を結成。公民館等、俳句サークルの指導にあたる。句集9冊・俳句関連誌10冊(『鈍足神追走記』『旧高麗郡篠井村史(句集)』『狭山優柔記』『狭山の俳句』『俳走記』『白球論』『遊走記』『棒球記』『走春賦』)「俳句研究社」第2回50句競作入選。「つばさ」代表。「野火」同人。

③笹井の戦災史『覚書狭山戦災史』『狭山戦災の頃をしのぶ夕べ』『俳句集狭山戦災日』をまとめる。焼夷弾投下により一瞬にして60軒の家々が消滅し、15人の死者を出す惨劇を目の当たりにする。その経験を将来に残すため、当時のことを語り合う会を立ち上げる。会は10年間続けられ、話されたことを『狭山戦災の頃をしのぶ夕べ』にまとめる。

④ランナーとしても広く知られる。体力作りのためマラソンを始める。年齢が若くなかったのであちこちで評判になり止められなくなる。青梅マラソンは連続24回完走、宮古島100キロRUN・北京～万里の長城RUN・日本山岳耐久レース完走、しまなみ街道100キロRUN等、数々のレースに参加。特に、京都三条大橋～東京日本橋500キロRUNの9日間は印象に残る。東京マラソンに83歳で出場、笹井での練習風景や当日の様子などテレビで放映される。

⑤他の著書(共著・編集) 『縄文通信』『狭山市現代資料編』『万蔵じいさんの馬車鉄夜ばなし』

### 3. 特筆

狭山市文化団体連合会主催の「狭山市民芸術祭」に協力し、広報紙「文化のいぶき」に連載中。また、「ふるさと伝承研究会」での朗読を指導し、現在、FM茶笛「茶の花村の玉手箱」放送中、狭山ケーブルテレビ「龍じいの昔ばなし」が好評放映中である。